



◆春の火災予防運動

3月1日から7日まで、「その火事を防ぐあなたに金メダル」をスローガンに春季全国火災予防運動が実施されます。

私たちの大切な命、財産を失わないために、火災を発生させないよう注意しましょう。

▶詳しくは、熊野市消防本部予防課（☎0597-89-0994）または紀宝分署（☎32-4545）までお問い合わせください。

3月1日から7日は春の火災予防運動週間 冬から春は火事発生の危険性が高い季節です

冬から春にかけて、山や田畑では枯れ葉や枯れ草が多くなることに加え、空気の乾燥やフェーン現象などから、火事発生の危険性が高くなる季節です。山火事や田畑での火事を起こさないために火の取り扱いには気をつけましょう。

◆山火事・田畑での火事を防ぐ6つのポイント

- 野焼きはしないこと
- 枯れ草のある場所など、火災の発生しやすい場所では、たき火をしないこと
- たき火など火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火すること
- 強風時や乾燥時には、たき火などをしないこと
- たばこは、指定された場所で喫煙し、吸い殻は必ず消すとともに、投げ捨てないこと
- 火遊びはしないこと

火災から自分や家族の命を守るために 設置していますか？住宅用火災警報器

昨年、住宅火災で亡くなった方のおよそ半分は「逃げ遅れ」です。また、住宅火災で亡くなった方の約7割は65歳以上の高齢者が占めています。

火災が発生したときに警報音で知らせてくれる住宅用火災警報器を設置することで、火災に早く気づき、逃げ遅れを減らし、命を守ることができます。また、住宅用火災警報器の設置は義務化されています。自分や家族の命を火災から守るために、設置していない家庭は、早急に設置しましょう。

◆設置箇所

- 設置が義務となっているのは
- ◎全ての寝室
 - ◎階段（1階以外に寝室がある場合）
- 台所は設置の義務はありませんが、火災の早期発見につながります。

◆住宅火災を防ぐ7つのポイント

- 寝たばこは、絶対やめる
- ストープは燃えやすいものから離れた位置で使用する
- ガスコンロなどのそばを離れるときは、必ず火を消す
- 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する
- 寝具や衣類およびカーテンからの火災を防ぐために、防災品を使用する
- 火災を小さいうちに消すために、住宅用火災警報器を設置する
- お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる

▶詳しくは、熊野市消防本部予防課（☎0597-89-0994）または紀宝分署（☎32-4545）までお問い合わせください。

紀宝町消防団をご存知ですか

こんにちは、私たちは紀宝町消防団です。

消防団と聞いても、あまりなじみのない方も多いのではないのでしょうか。町では令和3年2月1日現在、163人が団員として所属しています。普段はそれぞれの仕事をしていますが、いざというときには活動服に着替え、「自分たちのまちは自分たちで守る」という精神に基づいて現場に駆けつけます。現場では、消防署と連携した消火活動に加えて、災害時の救助や行方不明者の捜索など、状況に応じて幅広い活動を行っています。

また、近年増えている台風や豪雨、津波への水防も大切な仕事です。このほかにもイベントでの防災啓発、定期的な設備の点検や

日常の訓練を通して、災害に備えています。これから毎月、消防団の活動や防災に関することを紹介していく予定です。消防団を身近に感じてもらえればうれしいです。防災力の向上を図るためには、地域のさまざまな組織との連携を図ることが重要です。みなさまのご協力、どうぞよろしくお願いいたします。



01. 機械器具点検。02. 消火活動。03. 救護訓練。04. 防災訓練。05. 消火活動。

また、近年増えている台風や豪雨、津波への水防も大切な仕事です。このほかにもイベントでの防災啓発、定期的な設備の点検や



消防団に入りませんか？ 新規入団者募集！

消防団では新規団員を随時募集しています。条件は、紀宝町に居住または勤務している18歳以上で、男女は問いません。▶詳しくは、役場総務課防災対策室（☎33-0335）までお問い合わせください。

田畑 大輔さん
(第3分団大里班・39歳)



相野谷地区は水害が多い地域なので、台風や大雨の日はずっと様子が気になります。

◆お仕事は？

(街)三和サッシで、サッシなどの取り付けや修理、営業をしています。

◆入団のきっかけは？

以前住んでいた愛知県で消防団に入っており、地元でもみなさんの役に立ちたいと思って入団しました。父親とともに親子で活動しています。

◆趣味は？

体を動かすことが好きで、週に2回くらいソフトバレーをしています。

◆みなさんに一言

常日ごろから団員としての意識を持ち、呼び出しがあればすぐに向かえるよう心がけています。住民のみなさんは防災意識が高いので、ほかたちも一体となってさらに深く防災に取り組んでいきたいです。